



AFSとは

AFSは異文化学習の機会を提供する世界的な教育団体です。活動の起源は第一次・第二次世界大戦中に傷病兵の救護輸送をしたボランティア組織American Field Service（アメリカ野戦奉仕団）にあります。AFSの加盟国は約60か国、交流国は100か国以上に及び、理念に共感し活動を共にするボランティアとともに、多様な文化・価値観の人々と「共に生きることを学ぶ」活動を継続しています。



AFSの受入プログラム

ホストファミリー宅に家族の一員として滞在しながら、地域の高等学校または語学学校へ通学するプログラムです。

現在、日本にやって来る生徒は、世界約60か国から600名以上にのぼります。

1年（年間）

AFS年間受入プログラム

- 春季受入〔3月下旬～翌年2月上旬〕（152名）
 - 秋季受入〔8月下旬～翌年7月中旬〕（63名）
 - アジア高校生架け橋プロジェクト（文部科学省補助）
 - 秋季受入〔8月上旬～翌年3月下旬〕（200名）
- ※次年度からは春季受入〔4月上旬～翌年2月上旬〕で実施

6か月（セメスター）

AFSセメスター受入プログラム

- 春季受入〔3月下旬～8月下旬〕（12名）
- 秋季受入〔8月下旬～翌年2月上旬〕（14名）

4週間（短期）

AFS日本語研修プログラム

- 夏季受入〔6月下旬～7月下旬〕（60名）
- 冬季受入〔12月上旬～12月下旬〕（7名）

その他、補助・受託プログラムも実施。

（ ）内は2019年の受入実績数



1954年に日本から8名の高校生がアメリカに留学してから半世紀、AFS日本協会は「高校生留学のパイオニア」として派遣・受入プログラムを継続し、これまでの参加者は延べ4万名以上にのぼります。

AFSのプログラムは、世界約60か国の受入家庭、学校、地域の人々のボランティア精神に支えられています。なかでも、留学生を家庭に受け入れるホストファミリーは、異文化交流の最前線となります。まずは寛容な心で受け入れて頂き、驚きや面白さ、楽しい出来事、時には交流の難しさをご体験ください。留学生の日本語の習得を含めた成長ぶりや感謝の言葉に、さらには帰国後から始まる「もうひとりの子供、兄弟」との交流に、多くのご家庭に「やってよかった、感動的な体験をありがとう」という感想をお持ちいただいています。

本プログラムに関するお問い合わせ先：

〈UNESCOオフィシャルパートナー〉
公益財団法人AFS日本協会
<https://www.afs.or.jp/>



留学生の ホストファミリーに なりませんか



世界の高校生を
ご家庭に迎え入れていただけませんか？
言葉や食べ物、習慣は違っても
やっぱり同じ地球人。
ともに生活することから
互いの国際理解が始まります。





AFS留学生のホストファミリーとは

ホストファミリーの条件

留学生を受け入れてみたいが「英語がしゃべれない」「家が狭い」「同世代の子供がいない」などという理由でためらっているご家庭はありませんか。AFSでは、そのような条件であっても、ホストファミリーになっただけです。

「異文化交流を通じて公正で平和な世界の実現を目指す」というAFSの精神に共感し、「日本に留学を希望する海外の高校生を家族の一員として迎え入れよう」という気持ちをご家族全員が共有していれば、ご応募いただけます。

また、ご夫婦二人だけのご家庭や、お子様がいてご両親のうちいずれかが単身赴任中のご家庭なども、ホストファミリーになっただけです。異なる生活習慣や文化的な背景を持つティーンエイジャーと生活していく柔軟性や意欲さえあれば、大歓迎です。

少しでもご興味のある方は、是非ご連絡下さい。

ホストファミリーのご負担

基本的には、三度の食事と生活スペースをご提供ください。光熱費、日常使用する石けんやシャンプー、歯磨きなども、生徒が特別なものを必要としない限りは家族の一員として共有させてください。医療費、AFS行事参加費や通学費はAFSが負担し、小遣いや衣服はAFS生が持参します。



AFSのサポート

受け入れていただくAFS生に関して、ホストファミリーには男女・国などのご希望をお伺いいたします。ただし、状況により100%の実現ができないことがあります。ホストファミリーにご応募いただきましたら、支部の担当者をご家庭を訪問し、詳しい説明をさせていただくとともに、各ご家庭の日常生活についてうかがい、AFS生との組み合わせの参考にさせていただきます。

組み合わせは、ホストファミリーとAFS生の家庭環境や関心事、性格などを考慮のうえ慎重に行います。しかし、実際に生活を始めると、人間どうですかといううまくいくとは限りません。滞在中、AFS生は地域の支部に属し、AFSの担当者（LP、リエゾン・パーソンという）が定期的に生徒とホストファミリー、学校の三者と連絡をとり、留学生の適応を見守ります。LPは支部のボランティアスタッフで、各当事者から相談を受けたり、当事者だけでは解決しにくい問題が起こった時にはその解決に向けてサポートします。

AFSは、ホストファミリーに対して事前のオリエンテーションを行い、受け入れに関する詳細をお伝えします。また、AFS生に対しては来日直後に、日本での生活を始めるにあたって挨拶程度の日本語や習慣を伝えるオリエンテーションを行うほか、滞在中も追加オリエンテーションを2回行い、継続的にバックアップします。



受け入れに関するQ&A

Q. AFS留学の対象はなぜ高校生なのですか？

A. AFS生は異文化の中で毎日の学校や家庭での生活を通して、時には困難にぶつかりながらも、日本のことを少しずつ理解していきます。感受性豊かで柔軟な高校生の時期こそが、こうした異文化体験に最も適した時期とAFSでは考えます。

Q. 留学生の出身国について教えてください。

A. 出身国は約60か国に広がり、英語圏に偏らない幅広い交流を進めているために、非英語圏からの留学生が6割を占めます。一人でも多くの高校生が日本の生活を体験できるよう、出身国にこだわらず受け入れてくださるご家庭を歓迎します。

Q. 留学生の個室がないのですが、それでもいいですか？

A. 同性の兄弟姉妹と部屋を共用させていただければ、個室でも問題ありません。

Q. 外国語を話せる家族がいなくても大丈夫ですか？

A. はい、大丈夫です。AFS生は、留学前に日本語を学んで来る生徒も多く、最初はお互いに片言の会話でも、日本語に日々接することで少しずつ分かるようになってきます。

Q. 慶事や弔事などで家族全員が留守にする場合、どうしたらいいですか？

A. 家族の一員として同行いただくか、無理な場合は留守中は支部ボランティアが生徒を預かりますので、ご安心ください。

Q. AFS生が守るべき規則を教えてください。

A. 日本に滞在するAFS生は、日本の法律に従って生活し、日本の高校生としての規則に従います。また、車・バイクの運転はAFSの規則により一切禁止されています。

